

○氏名：角田隆洋

○会員番号：FE214

○専門分野：Civil(Structural)

○試験日と会場名：2007年10月26日（フロリダ州オーランド）

○PE 試験挑戦回数：1回目で合格

○使用した参考書、問題集：

- Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam (CERM9), 9th Edition
- Practice Problems for the Civil Engineering PE Exam (CEPP9), 9th Edition
- Bridge Design for the Civil and Structural PE Exams (CEBR2), 2nd Edition
- Structural Depth Reference Manual for the Civil PE Exam (CEST)
- NCEES PE Civil Engineering Sample Questions and Solutions
- AASHTO Standard Specifications for Highway Bridges, 2002 17th Edition
- ACI 318 Building Code Requirements for Structural Concrete, 2002
- AISC Manual of Steel Construction Allowable Stress Design, 19th Edition
- Allowable Stress Design Manual for Engineered Wood Construction, 2001
- TRB Highway Capacity Manual, 2000
- The New Penguin Dictionary of Civil Engineering
- その他、日本の大学の教科書やその他の日本語の参考書を数冊

○勉強時間：5ヶ月位、週5～6日、一日3時間程度

○試験場に持参した図書類：使用した参考書、問題集に同じ

合格体験記

PE 試験を受けようと思い準備を始めたのは2006年初めです。FE 試験は米国赴任前に日本で受験し合格していました。最初は住まいのあるカリフォルニア州での PE 試験を考えました。しかし、カリフォルニアでは、全ての業務経験に対して直接スーパーバイザーの立場であった PE の承認が必要になるため、PE 資格者がいない会社に勤務する身としては受験資格を得るのが難しい状況でした。赴任中はエンジニアとしての仕事をしている訳ではなく、滞在しているカリフォルニア州の PE 資格が業務上必要という訳でもありませんでした。そのため他州の受験資格も色々と調査した結果、フロリダ州では直接のスーパーバイザーでなくても1年以上のプロフェッショナルな関係がある PE であればリファレンスを得ることが可能であることが分かりました。フロリダ州は、経済規模も大きく、私の専門の橋梁建設が盛んであることもあり、フロリダ州で申請することを決めました。この時点で2006年5月でした。

リファレンスは、JSPE 植村会長、日本勤務時ある技術協会と一緒にいた他社の技術者、会社が米国で携わっている建設現場で働く PE 2 名からもらうことで解決出来ました。

2007年4月受験予定で、その時はリファレンスが一番のハードルと思っていましたので、準備期間として十分だろうと考えていました。しかし、実はもっと大きな問題は日本の大学で受けた教育のペリフィケイションをもらう

ことでした。フロリダ州のライセンスボードが指定する評価機関（JS&A）宛に私の成績証明書の英文訳を送っていただきました（本人からの送付は認めていないため、大学が直接送付する必要がありました）。しかし、その後評価機関から大学に「成績証明書だけでは認められない、シラバスが必要」との連絡が行きました。ご存じの方も多いと思いますが、米国の大学では日々の授業でどのような事を行うという所まで記載された詳細なシラバスが一般的です。最近でこそ日本でもシラバスを提供する大学が増えてきているようですが、私が在学中にはそのようなものは存在しませんでした。そのため、代替案として、大学教務課に私が当時受講した全ての講義内容紹介を探してもらい、それを課の英語が得意な方に翻訳して頂き、私が添削、それを大学から直接評価機関に送ってもらうという形で対応しました。授業内容は一科目辺り数～十数行程度の記述でしたので、このような簡単なシラバス（簡単と言っても全受講科目分ありますから結構なボリュームです）で大丈夫か不安でした。この間のドキュメントの準備ややり取りで大分時間を消費し、すでに 2006 年 10 月になっていました。

2006 年 11 月、成績評価機関から結果が届きました。「不可」でした。**シラバスが不十分で、そもそも ABET と同格の教育と認められない**ことが 1 つ目の理由です。2 つ目の理由は、**フロリダ州の関連法規では数学やエンジニア関係で必要な教科と教科数が細かく規定されていますが、当然日本の大学の一般的な必須科目とは異なります**。私は在学時そんなにまじめでなかったため、割とぎりぎりの単位数で卒業したのですが、それがたり、フロリダ州 PE に必要な「確率統計」の科目が抜けていたのです。

レターを受け取ったときは、正直心臓が床に落ちるくらい大きく落胆しました。私が受けた教育は間違いなく ABET と同格であると言える自信はありますが、それを証明できる書類が提出出来ないのでもうどうしようもありません。ただし、最終的にはライセンスボードが受験資格を判断するとの記載がされていました。

2007 年 2 月、ライセンスボードからもレターが送られてきました。やはり「不可」でした。しかしライセンスボードは、上記の成績評価機関の結果に関わらず、ABET と同格という所は認めてくれたようで、「不可」の理由は「確率統計」の科目が足りないためだけになっていました。レターにはさらに受取日から 90 日以内に不足している条件を満たさないと申請自体が無効になるという記述がされていました。

私は急いで対応策を考えました。間もなく近くの**カリフォルニア大学バークレー校公開講座で、確率統計の授業をオンラインで提供**しているのを見つけました。バークレー校はもちろん ABET にも認定されています。オンライン授業は、チャプター毎の勉強をオンラインで行い、各チャプター終了後に簡単な試験をメールを通して行い、全てのチャプターが終了すると、キャンパスに出向き、最終的な筆記試験を受け、合格であれば成績証明が受けられるという手順です。最終試験から成績証明がおけるまでの手続きで 3 週間位かかると言われましたので、授業自体は 2 ヶ月以内に終わらせる必要がありました。通常は全体で 4 ヶ月位はかかる内容ですが、インストラクターに無理矢理お願いし、例外的に 1 週間に 2～3 チャプターのスピードで受講することを了解してもらいました。受講開始後は毎日確率統計の勉強をしました。おかげで無事 90 日以内に大学から成績証明をライセンスボードに送ってもらうことができ、めでたく 2007 年 6 月、その年の 10 月に受験することが許されたというレターを受け取りました。

外国で学位を取得した場合は TOEFL のスコア等、英語能力の証明が必要となりますが、私の場合は、申請の過程で、電話やメール、レターを何回か交わしたことから判断してくれたのか、英語能力を証明する書類提出は特別求められませんでした。

準備を始めてからすでに一年半が経っていました。2008 年 2 月、ライセンスボードから資格証が届きました。もちろん嬉しかったのですが、「ようやく終わったか」と肩の荷がおりた安堵感が大きかった気がします。

以上、PE 受験の過程で経験したことを書き並べました。今後受験する方に少しでも参考になれば幸いです。